

令和6年度 鶴岡市決算特集

特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」

ユネスコ食文化創造都市に認定され令和6年で10周年を迎えたことを記念し、4月～6月に鶴岡アートフォーラムで開催

令和6年度の 決算を報告します

令和6年度は、鶴岡市総合計画後期基本計画の初年度として、5つの加速化プロジェクト「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」などをはじめとする各種施策を推進しました。また、物価高騰の影響を受ける市民生活や地域経済への対応のほか、豪雨災害や除雪対策など、市民の安全・安心にも適切に対応しました。

このような要因に加え、全国の自治体が対応に苦慮している人件費や、物価高騰による委託料の増加等により財源不足が生じたことから、市町村合併時から将来の財政運営に備えて積み立ててきた財政調整基金17億5千万円の取崩しを行い、普通会計の実質単年度収支は、13億8千万円の赤字となりました。

一方で、市債残高は26億9千万円減少し、将来の財政負担を縮小しております。

決算額は、歳入が28億7千万円の増、歳出が26億3千万円の増と、歳入・歳出ともに過去2番目の規模となりました。これは、定額減税調整給付金給付事業や朝陽第五小学校改築事業などの増によるものです。

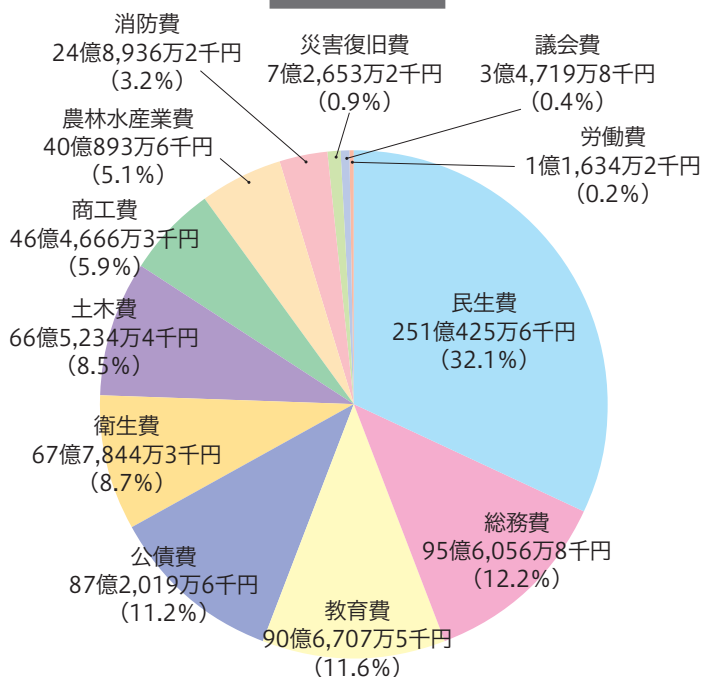
歳入歳出の主な増減の理由は2ページに記載しています。

普通会計歳出決算額

782億1,791万5千円

(対前年度 +26億2,672万8千円)

歳出の内訳

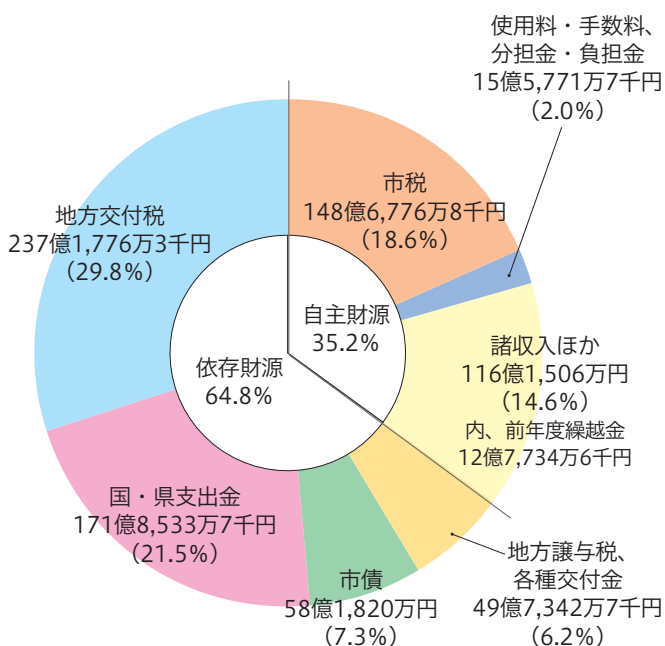


普通会計歳入決算額

797億3,527万2千円

(対前年度 +28億6,673万9千円)

歳入の内訳



前年度と比べた主な増減の理由

歳出

- 義務的経費（支出が義務付けられているお金）
 - 扶助費…9億2,339万7千円の増
国の経済対策による定額減税調整給付金給付事業の増
 - 公債費…9億6,762万5千円の減
総合保健福祉センターや加茂水族館の整備、朝陽四小の改築等に係る償還が終了したことによる減
- 投資的経費（道路や建物の建設など、社会資本として将来に残るものに使われるお金）
 - 災害復旧事業費…3億3,033万8千円の増
令和6年7月に発生した大雨災害の復旧経費などの増

歳入

- 自主財源（市税などの自主的な収入）
 - 寄附金…5億4,685万8千円の増
ふるさと寄附金等の増
 - 市税…6億8,133万8千円の減
定額減税による個人市民税、固定資産税等の減
- 依存財源（国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入）
 - 地方特例交付金…5億338万円の増
定額減税減収補填特例交付金等の増
 - 市債…13億320万円の増
朝陽第五小学校改築事業債や産業団地整備事業債の増

歳出額を市民1人あたりに換算すると

67万6千円／年間

民生費 福祉や保育などのためのお金  21万7,035円	総務費 課税・納税、職員管理、企画などのためのお金  8万2,655円	教育費 教育などのためのお金  7万8,388円
公債費 借金返済に充てるお金  7万5,389円	衛生費 健康増進やごみ処理などのためのお金  5万8,602円	土木費 道路や橋の建設などのためのお金  5万7,512円
商工費 商工業や観光の振興のためのお金  4万1,721円	農林水産業費 農林水産業の振興のためのお金  3万4,659円	消防費 消防や救急、救助活動などのためのお金  2万1,521円
災害復旧費 自然災害の復旧工事のためのお金  6,281円	議会費 市議会の運営のためのお金  3,002円	労働費 雇用対策などのためのお金  1,006円

歳入額を市民1人あたりに換算すると

68万9千円／年間

市税などの収入



市税 12万8,537円
使用料・手数料 8,816円
分担金・負担金 4,651円
諸収入ほか 3万2,364円

17万4,368円

国からの収入



31万4,432円

県からの収入



8万2,186円

市債(借入金)



5万300円

その他の収入

- ・前年度繰越金
- ・基金繰入金
- ・寄附金

など

6万8,053円

- 市税…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
- 使用料・手数料…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
- 分担金・負担金…特定のサービスを受けた方が負担したお金
- 諸収入ほか…貸付金の元金収入など
- 地方交付税…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
- 国・県支出金…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
- 市債…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
- 地方譲与税…国が徴収した特定の税から配分されたお金
- 各種交付金…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

※令和7年3月31日現在の人口：115,669人で算出。

普通会計決算収支の状況

	令和6年度	令和5年度	増 減
歳入決算額 ①	797億3,527万2千円	768億6,853万3千円	28億6,673万9千円
歳出決算額 ②	782億1,791万5千円	755億9,118万7千円	26億2,672万8千円
形式収支 ③=①-②	15億1,735万7千円	12億7,734万6千円	2億4,001万1千円
翌年度に 繰越すべき財源 ④	3億2,070万6千円	6,989万3千円	2億5,081万3千円
実質収支 ⑤=③-④	11億9,665万1千円	12億745万3千円	▲1,080万2千円
単年度収支 ⑥=⑤-⑤'	▲1,080万2千円	▲5億2,920万7千円	5億1,840万5千円
財政調整基金 積立金(★) ⑦	714万4千円	554万5千円	159万9千円
繰上償還金(★) ⑧	3億7,775万円	8億7,002万1千円	▲4億9,227万1千円
財政調整基金 取崩し額 ⑨	17億5,000万円	—	17億5,000万円
実質単年度収支 ⑩= ⑥+⑦+⑧-⑨	▲13億7,590万8千円	3億4,635万9千円	▲17億2,226万7千円

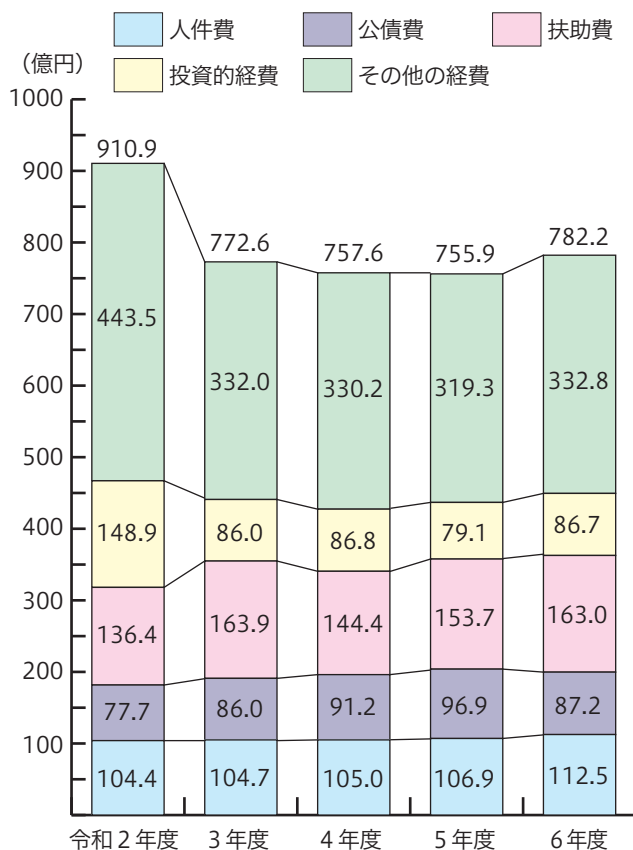
令和6年度の歳入は、ふるさと寄附金等が増収となり実質収支は黒字でしたが、全国的な職員給与改定による人件費の増加等の要因で、実質単年度収支は6年ぶりの赤字でした。引き続き、歳入と歳出のバランスを保ち財政の健全化に努めます。

⑤'…前年度の実質収支

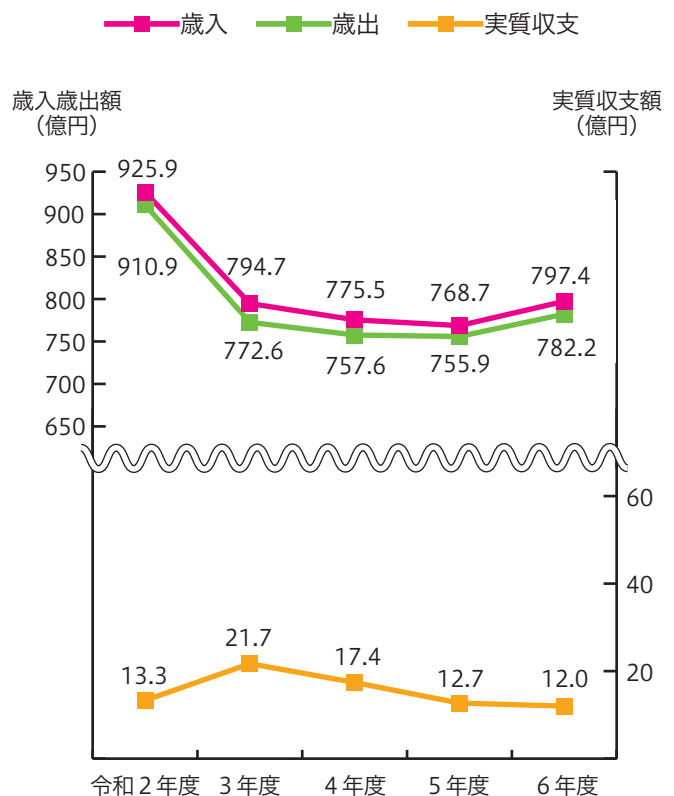
★財政調整基金
4ページの用語の解説参照

★繰上償還金
今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

普通会計の性質別歳出額の推移



普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移



貯金

令和6年度の主な取崩し

財政調整基金	17億5千万円
減債基金	10億円
その他の基金	8億3千万円

鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額
133億3,063万1千円
(対前年度 - 31億1,226万円)

市民1人当たり
12万円

用語の解説

財政調整基金 年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な収支減や、災害の発生等による支出の増加などへの備えとして積み立てている

減債基金 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の償還を計画的に行うために積み立てている

地域振興基金 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

積立基金の状況(種類と年度末残高)

	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末
財政調整基金	50億4,063万円	50億4,617万円	33億332万円
減債基金	42億9,975万円	43億1,591万円	33億3,525万円
その他の特定目的基金	地域振興基金	29億円	27億4,000万円
	公共施設整備基金	25億5,316万円	24億5,042万円
	加茂水族館整備振興基金	12億4,108万円	4億6,256万円
	地域まちづくり未来基金	5億7,576万円	4億3,867万円
	その他	9億7,618万円	9億8,916万円
	小計	82億4,618万円	70億8,081万円
合 計	175億8,656万円	164億4,289万円	133億3,063万円

財政健全化判断比率等

6年度は、市債残高が減少したものの、基金残高も減少したことなどにより、対前年度で8・3ポイント上昇して51・5%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っています。

将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となつている公債費等に加え、第三セクターの負債のうち、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に依りて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

将来負担比率

5ポイント上昇しました。

6年度は7・9%で、対前年度で0・

(★)に占める割合を指します。

地方公共団体の資金繰りの危険度を

示す指標です。公債費のほか公営企

業債に対する繰出金や一部事務組合の

公債費に対する負担金等を含めた実質

的な公債費相当額が、標準財政規模

に占める割合を指します。

実質公債費比率

地方公共団体の資金繰りの危険度を

示す指標です。公債費のほか公営企

業債に対する繰出金や一部事務組合の

公債費に対する負担金等を含めた実質

的な公債費相当額が、標準財政規模

に占める割合を指します。

「地方公共団体の財政の健全化に關する法律」に基づき、財政の健全性に關する比率を公表しています。

各比率が基準を超えた場合、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

財政健全化判断比率等

単位：%

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準(黄色信号)	財政再生基準(赤信号)
財政健全化判断比率	実質赤字比率	- ※1 (-)	11.44 (11.45)	20.00
	連結実質赤字比率	- ※2 (-)	16.44 (16.45)	30.00
	実質公債費比率	7.9 (7.4)	25.0	35.0
	将来負担比率	51.5 (43.2)	350.0	
資金不足比率(公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標	- ※3	経営健全化基準 20.00	

()内は5年度の数値

※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。

※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。

※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

★標準財政規模 その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

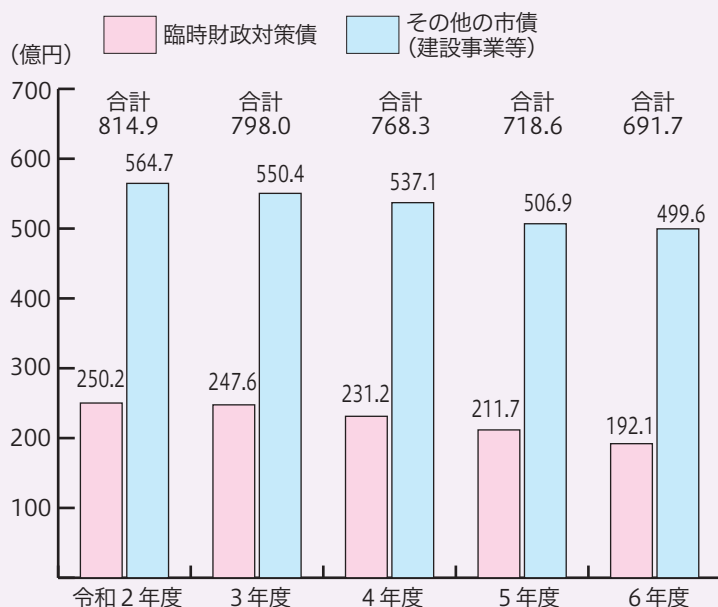
借金

鶴岡市の借金額は？

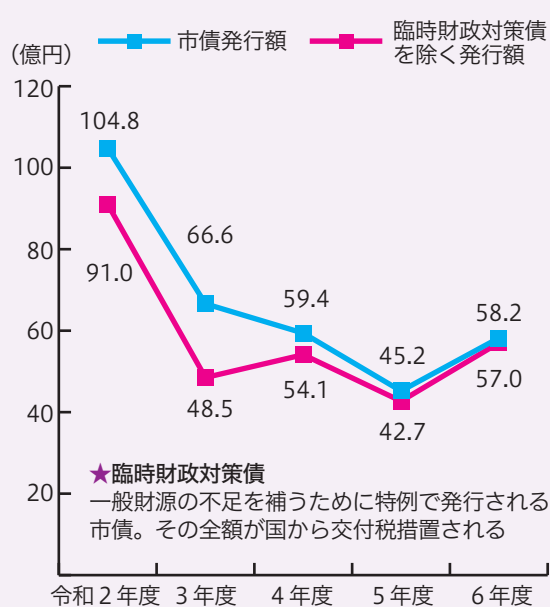
市債(借金)残高の総額
691億6,517万7千円
(対前年度 - 26億9,425万7千円)

市民 1 人当たり
60万円

市債残高の推移



市債発行額の推移



特別会計と企業会計の決算

特別会計 特定の事業を特定の収入で賄う会計。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	140億5,059万円	122億526万円	8億7,373万円	国民健康保険の円滑な運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	4,364万円	4,351万円	2,975万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	19億7,891万円	19億7,575万円	5億6,123万円	後期高齢者医療保険の円滑な運営
介護保険特別会計	171億5,701万円	160億3,508万円	22億6,366万円	介護保険の円滑な運営
休日夜間診療所特別会計	5,876万円	5,875万円	3,068万円	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,422万円	107万円	—	鶴岡墓園等の管理運営

企業会計 民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言い、本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

会計名等		収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
病院事業	収益的収支	138億551万円	148億5,556万円	11億9,244万円	病院事業の運営
	資本的収支	29億3,259万円	36億450万円	17億503万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	32億4,828万円	29億3,757万円	1,748万円	水道事業の運営
	資本的収支	5億9,145万円	17億2,358万円	1,729万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	53億8,099万円	53億8,051万円	12億6,818万円	下水道事業の運営
	資本的収支	51億2,641万円	69億387万円	10億8,012万円	下水道施設の整備等

特別会計と企業会計の事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。

第2次鶴岡市総合計画の実現に向け様々な事業を実施しました。
令和6年度に実施した事業の一部を写真で紹介します。



農業経営者育成学校管理運営事業

本市の基幹産業である農業の担い手の育成を目的として、農業経営者育成学校「SEADS」を運営しています。令和6年度は5期生として8人が入校し、4期生7人が新規就農しました。



AZITO社会実験 マリカ東館再整備事業

学生の居場所づくりに向けた社会実験の2年目として、マリカ東館2階に「つるおかAZITO」を開設しました。勉強はもちろん、おしゃべりや飲食も可能な、居心地の良い空間づくりを目指し取り組んでいます。



つるおかふうどフェスタ

ユネスコ食文化創造都市認定10周年記念事業を開催。国内外の食文化創造都市や海外姉妹都市のシェフによる料理デモンストレーションのほか、トークセッションやマルシェなどを行い、本市の食の豊かさを実感する機会となりました。



こども会議

子供から直接意見を聴き、市の施策に取り入れる「こども会議」を開催。8人のこども委員が「気軽に集うことができる理想の居場所を考えよう」をテーマに意見を出し合い、自分たちが考える理想の居場所について市に提案しました。



インバウンドプロモーション事業

観光客が少ない冬季の誘客を図るため、商談会やSNS等で活用するプロモーション動画を作成。またインバウンド誘客の推進のため、DEGAM鶴岡ツーリズムビューローと連携して台湾で商談会を開催したほか、マレーシアの商談会にも参加するなど、旅行商品や特産品のPRを行いました。



朝日庁舎改築事業

朝日庁舎と消防署朝日分署の合築による改築工事及び木質バイオマス棟整備工事が完了。令和7年6月に開所しました。市内の公共施設では初となる「ZEB Ready」の要件を満たす省エネルギー性能を備えています。デジタル技術を活用した行政サービスの向上を推進します。

令和6年度に実施した主な事業



米国・ニューブランズウィック市交流推進事業

新型コロナの影響で中止となっていた派遣事業が6年ぶりに実施され、中学生6人と引率3人が訪問しました。現地でのホームステイやミドルスクールへの訪問、友好協会の方々との交流を通して、両市の絆をより深めることができました。



鶴岡100年プライド～タイムカプセル掘起こし・記念展示

旧市制施行60周年を記念して1984年に埋設したタイムカプセルを、40年の時を越え掘起こしました。市役所本所での記念展示には多くの人々が訪れ、当時の風景が納められたアルバムなどの収納品を手に取り懐かしんでいました。



コミュニティセンター改修事業

老朽化が進んだコミュニティセンターの長寿命化を図るため、屋根や外壁の修繕、トイレの洋式化、空調の整備などの改修工事を計画的に実施しています。令和6年度は、田川コミュニティセンターの大集会室屋根改修工事を実施しました。



地域内企業の高度化、企業活性化支援事業

高等教育機関の地域産業界との連携や研究開発等に助成。高校生ビジネスプラン・グランプリで鶴岡高専学生チームのプラン「流せるオムツ」が5,000件以上の応募の中からベスト100に選ばれ、今年6月には大阪・関西万博でも発表しました。



荘内看護専門学校移転新築事業

校舎の移転新築工事を実施し、実践的なシミュレーション教室等を備えた学校として整備しました。地域の看護人材の確保や若者の地元定着を目的として、1学年の定員を20人から30人に増員し、令和7年4月に開校しました。



つるおか市民で歌うオペラ・ガラ・コンサート

荘銀タクト鶴岡の主催事業として、市民参加型のオペラ・ガラ・コンサートを開催しました。約80人の市民合唱団が企画段階から演奏会に関わり、山形交響楽団や鶴岡にゆかりのあるソリストとともに、オペラの名曲の数々を披露しました。

令和6年度に各地域の特性を生かして実施した事業を紹介します。

〈鶴岡地域〉



鶴岡地域まちづくり未来事業

湯田川地区では、地域の資源である竹林を「委託したい人」「管理する人」「イベントに参加したい人」としてそれぞれ募り、環境の維持に取り組んでいます。また、竹チップを肥料化し活用する取り組みにも挑戦しています。

〈藤島地域〉



庄内農業高等学校地域連携事業

庄内農業高校の生徒たちが、地域内で活躍できる仕組み作りを行っています。生徒たちが作ったうどんを飲食店で限定販売する「庄農うどん大作戦！」には根強いファンが多く、にぎわいづくりにつながっています。

〈羽黒地域〉



門前町歴史まちづくり推進事業

手向地区の歴史的風致への誇りや愛着、保存への意識向上と、来訪者への景観保全の取り組みの周知につなげるため、手向ロゴマークを使用した景観整備プレートを製作し、住民への贈呈式を行いました。

〈櫛引地域〉



櫛引ゆかりの偉人展示会開催事業

旧櫛引村の誕生70周年を記念し、櫛引ゆかりの4人の偉人を紹介しながら、市に寄贈された貴重な作品や遺品等を展示。あわせて櫛引地域の歴史・文化・観光施設等も紹介し、地域の魅力を広くPRしました。

〈朝日地域〉



六十里越街道魅力発信事業

SNSや撮影に関するノウハウを学んだ後に、六十里越街道を歩き、参加者それぞれがInstagram等で魅力を発信。地域の若者で結成する「チームWaGeSho」が、見逃しがちな価値を見つけるサポートを行いました。

〈温海地域〉



家族まるごと移住体験事業

関係人口の創出・拡大を目指し、移住に関心のある家族に保育を伴う1週間～2週間の地方滞在プログラムを提供。自然豊かな温海地域での保育や暮らし体験は好評で、都市圏の家族を中心に14組を受け入れました。

今後の財政運営

○安定的な収入を増やす取り組み

歳入では、安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源の安定的確保、市税等の徴収率の向上、受益者負担のあり方の見直しが必要です。加えて、ふるさと寄附金の増収とあわせて、ガバメントクラウドファンディングや企業版ふるさと寄附金の獲得に努めます。

○歳出を減らす取り組み

総合計画後期基本計画に基づく施策を着実に推進する一方で、事務事業の見直しやデジタル技術を活用した業務の効率化等による経常経費の削減を一層進めるとともに、投資事業の計画的実施、基金の適切な活用に向けていきます。

○基金の活用

これまで、合併特例期間中に将来の財政負担に備えて、基金の充実に努めてきました。今後も安定的な財政運営のために財政調整基金など各種基金の適切な水準維持に努めながら、有効に活用していきます。

○最後に

物価高騰等での社会経済活動の変化による本市財政への影響も考慮しながら、組織体制の見直しや歳入・歳出の適正化を図り、更なる財政健全化に努めます。また安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策に着手に取り組んでいきます。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集についての問合せは
本所財政課 ☎25-2111 内線357、
✉ zaisei@city.tsuruoka.lg.jp へ

広報つるおか特集号

編集・発行／鶴岡市総務部総務課 つるおか広報室

〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9-25

ホームページ <https://www.city.tsuruoka.lg.jp>



環境に配慮し植物油
インキを使用しています